

■短信■ 北木島の産業遺産

小西 伸彦

はじめに

北木島は岡山県笠岡港の南およそ 14km の瀬戸内海にあり、面積 7.30 km²、周囲 18.3km である。島周辺は中世代白亜紀の地殻変動でマグマが貫入してできた 50km×200km の花崗岩地帯で、北木の畑に二度鋤を入れるとカチンと石に当たると言われる花崗岩の島である。北木石は 1629(寛永 6)年に完成した大阪城桜門や石垣に使われたことで知られ、慶応年間(1865~1868 年)には採石が島の生業の柱となった。北木石の価値はまず阪神で認められ、その評判は明治時代中期以降、全国に広まった。採石業の最盛期は、岡山県倉敷市の水島臨海工業地帯などが造成された昭和時代中期である。島内の丁場や丁場湖などは 2019 年 5 月、香川県小豆島などと共に日本遺産「知ってる!?悠久の時が流れる石の島~海を越え、日本の礎を築いたせとうち備讃諸島~」に認定された。

採石の歴史

明治時代中期、北木石を全国に広めたのは伊予の畑中平之丞である。畑中は島民から山を賃借するなどして採掘範囲を広げ、販路を阪神から京浜へと拡大した。伊予から石工を呼び寄せ、広島県府中からは石屋が移住してきた。その努力が実り北木石は、皇居正門橋や日本銀行本店、日本銀行大阪支店、横浜正金銀行本店、日本橋、東京駅丸ノ内本屋、日本橋三越、明治神宮神宮橋、大阪市中央公会堂、三井銀行小樽支店、三井本館、明治生命館などに使われた。第一合同銀行倉敷支店や倉敷教会堂の外壁にもなっている。石材業の発展と共に、農業や漁業で生計を立てていた島民も石の加工や販売に携わるようになった。

北木石が大きく報じられたのは、靖国神社の大鳥居になる石材が海軍の砲運船で積み出された 1932 年である。昭和 30 年代になると、水島や広島県福山市、香川県坂出市などで臨海工業地帯の造成が始まり、海岸に近い丁場から大量の雑石が海岸埋立地に運ばれた。こうした石材需要の高まりを背景に 1957 年、丁場は 127 箇所、石を運ぶ木

造の石船は 80 艘余りに急増した。採石場に近い金風呂や豊浦などは、採石で出た端材を積み上げた急ぎしらの港になった。掘れば飛ぶように売れた時代であった。瀬戸内海は 1934 年、雲仙、霧島とともに日本最初の国立公園に指定されたが、石材業で賑わった北木島は指定から外されている。

しかし臨海工業地帯の埋立工事が一段落した昭和 40 年代になると、雑石の需要が落ち込み、良質の石の採れる所が地下深部におよび、採掘費が大きく上昇するようになった。同じ頃、福山港に中国などからの安価な石材が荷揚げされるようになり、笠岡湾干拓地には企業や工場が進出し始めた。福山港に着いた海外産石材を小型船に積み替え、北木島で加工して再び運び出すよりも、福山港からトラックで直接、笠岡湾干拓地に運ぶ方が時間と経費の節約になったことから、北木島から笠岡湾干拓地に転出する石材加工会社も現れた。現在も島で稼働している採石場は 2 箇所のみである。

北木石の産業遺産



写真 1 展望台から俯瞰した鶴田石材の丁場

笠岡市内には日本遺産の構成文化財が 11 件あり、その内の 6 件が北木島にある。「北木島の丁場(写真 1)」は鶴田石材が経営する金風呂の現役採石場で、日本銀行本店や東京駅丸ノ内本屋、明治生命館などの石を産出した。端材を積み上げた独特の姿を見せる「千ノ浜の護岸風景(写真 2)」は、臨海工業地帯の埋立工事現場に大量の雑石を運び出した産業景観である。千ノ浜の丁場跡に雨水がたまり、湖のような風景を呈しているのが「北木島の丁場湖(写真 3)」である。かつて島内で操業した採石場 127 の中では最大規模で、水深は 20m 程になる。近くには採石道具を手入れする「ふいご小屋」も現存する。1950 年代前半から 1967 年頃まで営業を続けた映画館「光劇場」は、北木島の繁栄を象徴する産業遺産である。スクリーンや客席、映写機などがそのまま残され、今は北木島の歴史や古写真、島民へのインタビュー映像を紹介する施設として活用されている。「北木島の石工道具」は、明治時代から第二次世界大戦後まで使われた採石用のノミやゲンノウ、運搬用のマダグルマ、成形用のハツリミノなど 199 点で、道具の修繕に使われた鍛冶用具や削孔機、削岩機も含まれる。

金風呂の港には「残念石」が残されている(写真 4)。靖国神社の大鳥居となる石材一式が積み出された 1932 年、不測の事態に備えて用意された予備石のことである。奉納されることなく終わったことから「残念石」と呼ばれている。豊浦の八幡神社に建つ鳥居(写真 5)には「明治貳拾五年」、「畠中平之丞」、「服部與兵衛」などと刻まれている。畠中平之丞は畑中平之丞のことで、服部は東京深川の石材商である。二人は日本銀行本店の工事現場に送られる北木石が、海路無事到着することを祈って鳥居を寄進した。八幡神社の近くには、1923 年に移転・新築された 2 代目北木島郵便局がある(写真 6)。木造 2 階建、下見板張りを基本とした外壁はほぼ竣工当時のままである。北木島郵便局は 1898 年、畑中平之丞によって創設され、畑中が局長の椅子に座った。1919 年 12 月、明治神宮から北木島石材取締役で北木島村会議員の鶴田養輔に宛て、神宮の造営に北木石を使う旨の書状が届いた。鶴田はすぐさま腕の確かな石工を集め、1920 年、神宮橋を完成させたのであるが、その書状は

北木島郵便局から配達されたものであった。残念石と八幡神社の鳥居、北木島郵便局は日本遺産の構成文化財には含まれていないが、北木石を顕彰する上での重要な産業遺産であると考えられる。

産業遺産の活用と歴史の伝承

鶴田石材の創業は 1892 年である。4 代目代表取締役・鶴田康範氏は 2017 年、丁場に防護柵を備えた「石切りの溪谷展望台」を完成させた。高さ約 70m から最大高低差 150m の丁場を眺望する展望台は、「平成 28 年度地域産業資源活用事業計画」の「北木島採石場見学ツアー及び北木石を使用した土産品の開発・販売事業」の一つとして建設された。鶴田石材の丁場から掘り出される北木石は「不死鳥の石~海面下より切り出す最高品質の北木石~」として「平成 29 年度かさおかブランド(技術・産業部門)」(鶴田石材の丁場と島内の丁場跡などは「北木島採石場及び採石跡の景観と石切り文化/北木島の生活道路から見える、北木島の丁場跡」として「平成 30 年度かさおかブランド(観光部門)」に選定された。平成時代に行われた明治生命館の改修工事、東京駅丸ノ内本屋の復元工事、日本銀行本店の耐震補強工事にも、鶴田石材の丁場から切り出された石が使われた。

鳴本石材を継いで 2014 年、代表取締役社長に就任した鳴本太郎氏は 2017 年、豊浦港に石の資料館とレンタサイクル、飲食・物販施設を併設したストーンミュージアム K's LABO を開設した。石の資料館は現物資料や写真、解説パネルで北木石の歴史を紹介する施設である。鳴本氏はまた、ストーンミュージアム K's LABO を会場に 2018 年、石彫作家 5 人を招聘するアートイベント「石彫アートフェス 2018」を開催し、芸術家と地域住民、来訪者らとの交流を図るなど、北木石の顕彰と普及への努力を続けている。

おわりに

北木島では 1989 年から 2001 年にかけて「石彫シンポジウム」が開催された。北木石と北木石の産業遺産は「平成 28 年度地域産業資源活用事業計画」や「平成 29 年度かさおかブランド(技術・産業部門)」(「平成 30 年度かさおかブランド(観光部門)」に選定され、2019 年には日本遺産に認定された。

しかし日本遺産が狙うインバウンド効果が現れた
とはいえない。北木島は犬島や万成に並ぶ、岡山
県を代表する花崗岩の産地である。しかし県民の
多くは、北海道から京浜、阪神、中国地方一円の
近代建築や橋梁に使われ、靖国神社の大鳥居にも
なった北木石の歴史と価値を知らない。北木石は
今も、われわれの身近なところで生き続けている。
今一度、北木石の歴史に目を向け、産業遺産を学
び直す意義は大きいと考える。

謝辞

調査にご協力下さった笠岡市教育委員会教育部
生涯学習課主幹で産業部商工観光課主幹・安東康
宏氏、鶴田石材株式会社代表取締役・鶴田康範氏、
鳴本石材株式会社代表取締役会長で笠岡商工会議
所会頭・鳴本哲矢氏、鳴本石材株式会社代表取締
役社長・鳴本太郎氏に深くお礼申し上げます。

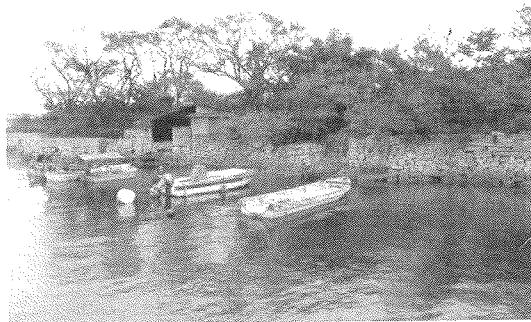


写真2 千ノ浜の護岸景観



写真3 丁場湖



写真4 残念石

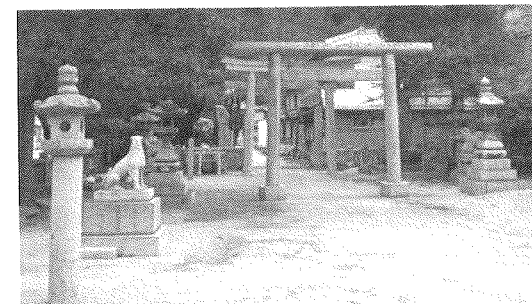


写真5 八幡神社の鳥居



写真6 北木島郵便局
(写真はすべて2019年9月20日筆者撮影)

おもな参考文献

- 「角川日本地名大辞典」編纂委員会編『角川日本地名大辞
典33 岡山県』、角川書店、1989年
笠岡市史編さん室編『笠岡市史』第3巻、笠岡市、1996年
笠岡市史編さん室編『笠岡市史』第4巻、笠岡市、2003年
パンフレット「日本遺産 知ってる!?悠久の時間が流れる石の
島〜海を越え、日本の礎を築いた瀬戸内備讃諸島〜」、せと
うち備讃諸島日本遺産推進協議会
パンフレット「国産銘石 北木石」、北木石材商工業組合
パンフレット「Force of Stone」、鳴本石材
岡山県歴史人物事典編纂委員会編『岡山県歴史人物事典』、
山陽新聞社、1994年
鳴本太郎編『石彫アートフェス2018』、K's LABO、2018年